

| 令和8年度までの目標 | 国語 | | 算数・数学 | |
|------------|-----------|------|-----------|------|
| | 自校A B層の割合 | 80 | 自校A B層の割合 | 80 |
| 令和5年度の成果 | 自校A B層の割合 | 68.2 | 自校A B層の割合 | 68.1 |

目標達成に向けた取組

| 3つの観点 | 教員の指導力向上 | 基礎学力の保障 | 学習習慣の確立 |
|---------------------------|--|--|---|
| 学校全体の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○「学び合い」を重視した授業の実践をする。(A→教えることで学びの定着 CD→教えられることでの学びの定着) ○教科指導の専門性向上→教科担任制を推進する。 ○一人1台端末を活用した授業の実践をする。→研修機会の充実 ○若手教師勉強会(わかば研・青葉研)を充実させる。→積極的な校内授業見学の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習カルテ、放課後補習教室や東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。 ○よむyomuタイムを活用した読解力向上を図る。 ○学年×10分程度の宿題を出し、家庭学習の習慣を定着させる。 ○デジタルドリル「ミライシード」の活用をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○清新一小学習スタンダードを定着させ、学習規律を徹底する。 ○「学び合い」を実現させるための環境づくりの整備をする。→規律と思いやりのある学級経営 ○年間3回の家庭学習週間を設定し、家庭への啓発を図る。 |
| 特に支援が必要な児童・生徒への手立て | <ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要な児童の把握と個々の学力向上に向けたアプローチ計画を立て、実施する。(本人や保護者との個人面談) ○支援に向けてのフォローアップを取り入れた授業内容にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○定着度調査を活用しCD層児童の学習状況を把握し、放課後補習事業者と連携して、実施する。 ○「ミライシード」の活用状況を把握し、苦手分野の復習を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の状況を把握し、目標達成に向けて、本人や家庭への働きかけを継続する。 |
| 成果指標 | <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査 「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」 「国語・算数の授業内容はよくわかりますか」の回答割合→95%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ○江戸川区学力調査8割達成者→80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」できる以上の回答割合→80%以上 |